

目標5 磨かれた魅力に人々が集い、活力に満ちている

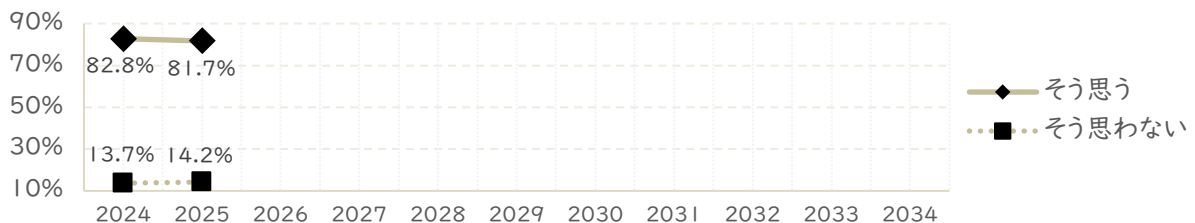
<めざす姿>

- 自然や歴史、文化芸術、食などの多彩な資源が磨きあげられるとともに、福岡都市圏や九州各都市などと連携し、魅力向上に向けた取組みが行われ、一体的な集客力が高まっています。
- 都心に近い舞鶴公園・大濠公園一帯が、市民の憩いの場となるとともに、歴史や文化を生かした観光交流の拠点として機能し、都市の顔として、さらなる魅力の向上に重要な役割を果たしています。
- 国内有数の MICE 都市として、様々な国際会議が開催されるとともに、スポーツや音楽のイベントなどが盛んに開催されるエンターテインメント都市として、広く認知されています。

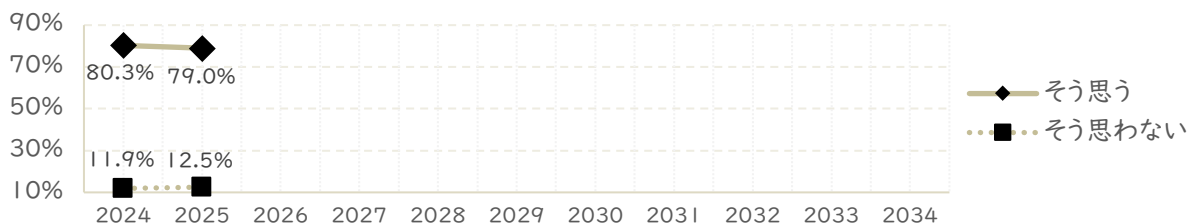
市民意識	そう思う (「どちらかと言えば そう思う」を含む)	そう思わない (「どちらかと言えば そう思わない」を含む)	わからない
(1) 自然、歴史、文化芸術、食などの魅力的な観光資源がある	81.7%	14.2%	4.1%
(2) 舞鶴公園や大濠公園が、市民の憩いの場や観光スポットになっている	79.0%	12.5%	8.5%
(3) スポーツ観戦や音楽イベントなどのエンターテインメントを楽しめる	86.1%	9.3%	4.6%

出典：福岡市基本計画に係る意識調査

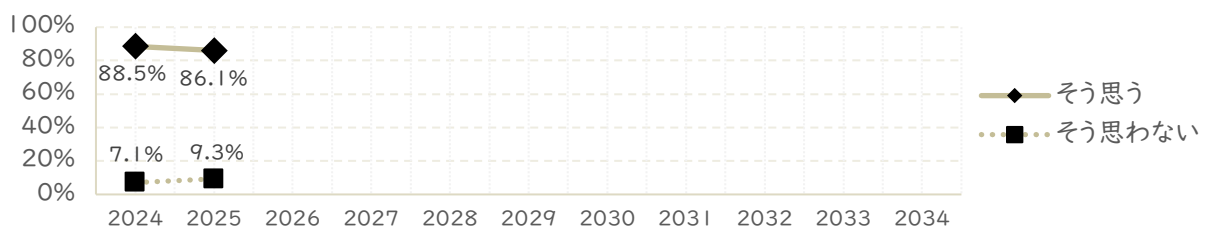
(1) 自然、歴史、文化芸術、食などの魅力的な観光資源がある



(2) 舞鶴公園や大濠公園が、市民の憩いの場や観光スポットになっている



(3) スポーツ観戦や音楽イベントなどのエンターテインメントを楽しめる

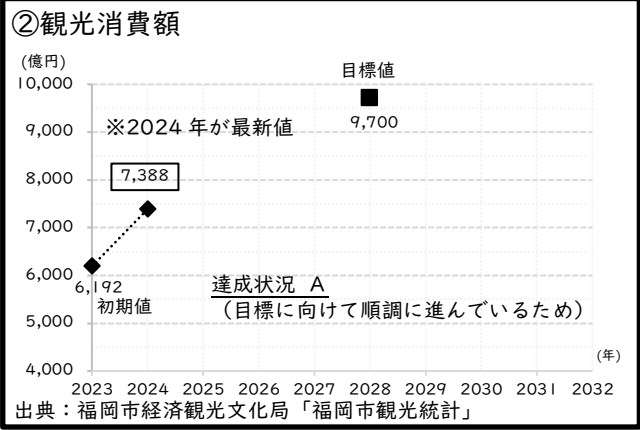
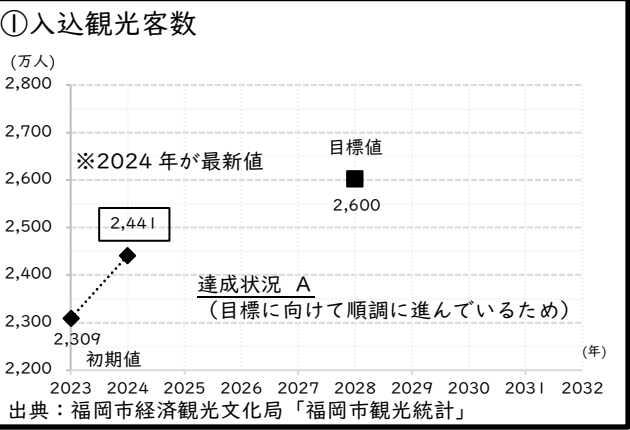


施策5-1 観光資源の磨き上げと戦略的なプロモーションの推進

＜取組みの方向性＞

自然環境や歴史資源を生かした都市景観、美術館や博物館などの文化芸術、食、祭りなどの福岡市固有の魅力を観光資源として磨き上げ、広域的な連携も図りながら戦略的なプロモーションに取り組むことで付加価値の高い観光誘客を推進するとともに、市民生活の向上を図る持続可能な観光振興に取り組めます。

1 施策の指標



＜指標の分析＞

全国的に訪日外国人の旅行者数や旅行消費額が増加するなか、福岡市においては、自然や食などの魅力の磨き上げや西のゴールデンルートなど広域連携によるプロモーション、高付加価値旅行者の誘客などに取り組んだことで、欧米豪をはじめとする幅広い国・地域からの入国者や一人あたりの消費単価が増加し、入込観光客数や観光消費額は過去最高を更新している。

2 事業の進捗状況、指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	(参考) 前年度の評価 —
------	------------------

3 事業の指標・進捗状況・課題・今後の方向性

●魅力の磨き上げ

海辺を生かした観光振興				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
市営渡船（志賀島航路）の年間観光利用者数	約 154,000 人	約 149,100 人 ※速報値	約 170,000 人	D
北崎地区における主要路線バス年間利用者	約 322,200 人	約 348,600 人	約 355,000 人	A
【進捗状況】 ・海辺の観光周遊コースの形成に向けて、豊かな自然環境と調和した道づくりや、写真を撮りたくなる海辺の魅力づくり、立ち寄りスポットの整備等を行った。 ＊北崎地区（大字西浦）の歩道美装化工事を実施（R7.3 完了） ＊北崎地区（大字西浦）の無電柱化工事を実施 ＊志賀島地区の無電柱化工事を実施（R7.3 完了） ＊志賀島地区の歩道美装化工事を実施 ＊志賀島周辺エリア内でのレンタサイクル利用者数 R6n：7,020 人→R7n：8,204 人				
【課題】 ・観光資源を最大限活かした魅力の向上に取り組むとともに、当該地区を中心とした観光周遊コースを形成することにより、周辺地区への消費喚起、地域経済の活性化にもつなげる必要がある。				
【今後の方向性】 ・引き続き、豊かな自然環境と調和した道づくりのため、歩道美装化、無電柱化に取り組む。 ・サイクルツーリズムの推進に向けた観光案内板の設置や、観光客が楽しめる観光コンテンツの販路拡大に取り組むとともに、引き続き回遊を促進する立ち寄りスポットの整備等を行う。				

食のユニバーサル対応の推進				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
外国人観光客の福岡の食の多様性に関する満足度	58.7%	66.6%	80%	A
【進捗状況】 ・ヴィーガン等対応店舗の受入環境の充実にに向けた取り組み ＊個別店舗に向けてヴィーガン等対応の専門家によるメニュー開発支援等を行った。 ＊ヴィーガン等対応店舗の拡充に向けて、セミナー等を開催した。 ・国内外への情報発信 ＊福岡市内のヴィーガン等対応店舗を紹介するガイドブックを制作した。 ＊国内外へ向けてWEBサイトやSNS等による情報発信を行った。				
【課題】 ・幅広い国・地域からの来訪者等に対応するため、多様な食文化に配慮した受入環境の充実を継続的に図る必要がある。				
【今後の方向性】 ・多様な食文化に対応するため、飲食店向けメニュー開発支援によるヴィーガン等対応店舗の受入環境の充実や国内外への情報発信を行う。				

歴史・文化を生かした観光資源の磨き上げ
【進捗状況】 ・板付遺跡において、多目的広場の改修や案内板設置など教育旅行等の受入環境整備を行った。
【課題】 ・文化財や展示施設の老朽化等への対応に加えて、魅力を活かした教育旅行や文化観光に資する取り組みが必要である。
【今後の方向性】 ・引き続き、板付遺跡において教育旅行や文化観光による来訪促進に向け、受入環境の整備に取り組む。R8年度はトイレや竪穴住居の改修等を予定している。

屋台プロモーション
【進捗状況】 ・屋台の更なるイメージアップを目的とし、利用マナーや衛生的で安心して利用できることをPRするため、屋台LPサイト、地下鉄広告、インフルエンサーによる情報発信等を実施した。 ・令和7年度に新規オープンする屋台のあるエリアのPRや、長浜鮮魚市場内の魚食推進普及施設と連携し、期間限定メニューの提供や限定グッズ配布等のイベントを実施した。
【課題】 ・多くのメディアに屋台が取り上げられているものの、特定エリアに利用者が集中し、屋台をゆっくり楽しみたいと考える利用者のニーズに対応できていない可能性がある。
【今後の方向性】 ・天神・中洲・長浜の各屋台街の特徴など、屋台に関する旅マエ情報の発信を強化し、利用者のニーズに合った屋台街への誘客を図ることで、福岡観光に対する満足度向上を図る。 ・外国人観光客が、地元客や国内観光客と共存しながら屋台を楽しむことができるよう、引き続き、福岡空港国際線の観光案内所への屋台の利用マナーなどを案内する屋台コンシェルジュの運営や外国語版屋台マップの配布などに取り組む。

美術館・アジア美術館・博物館の魅力向上〈再掲1-2〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
美術館利用者数	667,556 人	697,827 人	670,000 人	A
アジア美術館利用者数	380,306 人	253,024 人	460,000 人	D
博物館リニューアル 広場供用開始(2026 年度) 本館供用開始(2028 年度)	—	—	—	—
【進捗状況】 ・福岡市美術館においては、コレクション展示（近現代）において空間デザインを活用した展示を行うとともに、音声ガイドによる紹介も行い、作品鑑賞の充実に取り組んだ。 ・アジア美術館については、展示や装飾の工夫を行うとともに、SNS 等を活用し、プロモーション動画によりコレクション展の魅力を発信した。また、警固公園地下への施設拡充に向けた基本計画の策定や最適事業手法等の検討を実施した。 *アジア美術館施設利用者数 R6n：380,306 人→R7n：253,024 人 (R7.12.1 から R8.3.31 まで休館) ・博物館においては、南側広場整備工事に着手し、2026 年度中の供用開始予定。本館供用開始については 2028 年度以降。				
【課題】 ・福岡市美術館においては、多くの方々にご利用いただき目標を達成したが、引き続き、広報等に努め、新規来館者の取り込みに努力していきたい。 ・アジア美術館については、来館者から高い評価を得ているものの、来館者数は伸び悩んでいる。 ・博物館リニューアルの着実な推進。				
【今後の方向性】 ・美術館及びアジア美術館において、空間デザインを刷新し、コレクション展示の充実を図るとともに、警固公園地下への施設拡充に係る基本設計等を実施する。 ・博物館においては、幅広い観光客をターゲットとした文化観光の拠点や文化を次世代へ継承する拠点等としての機能向上や運営体制の強化を目指し、リニューアルを推進する。				

魅力的な都市景観の形成〈再掲4-1〉				
【進捗状況】 ・施策の方向性を分かりやすく示し、総合的かつ一体的に施策を推進するため、「都市景観形成基本計画」と「景観計画」を一体化し、新たな「福岡市景観計画」として策定した。 ・福岡市景観計画に基づく良好な景観形成に向けた取組みに関する周知を図るとともに、景観に対する意識の高揚を目的とする事業を実施した。 ・歴史・伝統ゾーンに位置づけられている姪浜地区等において、都市景観形成地区の指定に向けた検討のため、勉強会の開催など、地域と共働による取組みを実施した。				
【課題】 ・景観計画に基づき、地域特性に応じたきめ細かな景観誘導を行っているものの、さらなる推進を図るには、今後とも市民や民間事業者などとの共働による取組みを行っていく必要がある。				
【今後の方向性】 ・地域が主体となった良好な景観形成を推進するため、勉強会の開催や助成事業の活用など、地域の取組みへの支援を行っていく。 ・歴史・伝統ゾーンに位置づけられた姪浜地区等においては、引き続き、地域との共働によるまちなみルールづくりの検討を進めていく。				

動植物園の魅力向上〈再掲4-2〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
来園者数	83 万人	86 万人	100 万人	B
【進捗状況】 ・来園者数は、R6.11.30 のゾウ全面公開により増加している。対前年比3万1千人増、3.8%増。 ・福岡市動植物園再生基本構想・計画について必要な修正を行った。(R7n) ・植物園エントランスガーデンがR8.3.18にオープンした。				
【課題】 ・両園のより一体的な機能の向上を図る必要がある。 ・動物本来の生態をより快適に見やすく学べる環境づくりを行う必要がある。 ・1年中学び楽しめる植物展示と一人一花運動の拠点機能強化を進める必要がある。				
【今後の方向性】 ・両園が一体となった賑わいづくりや広報の強化を図っていく。 ・R8n から、現在、ライオン・トラがいるエリアの基本設計に着手する。 ・エントランスガーデンや温室を活かした展示を行うとともに、温室前広場やボタニカルライフスクエアを活用した、展示・体験イベントの充実を図っていく。				

映像作品を通じた誘客促進〈再掲5-4〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
観光誘客に資する作品誘致	—	2 件	4 件	A
【進捗状況】 ・R7n に映画やドラマ撮影に係る制作費の一部を支援する「映像を通じた誘客促進事業補助金」を新設し、国内外の大型作品誘致を強化することで本市の魅力を広く発信し観光誘客促進を図る。 ＊R7n 実績：応募4件、補助対象2作品。				
【課題】 ・国内外問わず、映像を通して福岡の魅力を発信し誘客促進に繋がる作品を、継続的に誘致することが必要である。				
【今後の方向性】 ・国内外の見本市やイベントへの参加を通じて、国内外のプロデューサーへのプロモーションを行う等、誘客促進に繋がる作品誘致に努める。				

農水産物の消費拡大・ブランド化推進〈再掲7-2〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
水産物のブランド化品目数	1品 (2023年度)	1品	2品	C
【進捗状況】 ・学校給食への市内産農水産物の活用や市民が農業・漁業へ触れる機会の提供 ＊学校給食における市内産農産物利用割合 R6n：26.5% → R7n：28.6% ＊魅力ある市内産農水産物を学校給食へ提供 博多和牛、ブリ、博多あまおう ＊農産物産地見学会 R6n：4回 → R7n：4回、漁業体験 R6n：1回 → R7n：1回 ・ふくおかさん家のうまかもん条例に基づく販路拡大の推進 ＊農産物については、発信力のある飲食店等の料理人などを産地に招聘し、メディアを通じた情報発信。 ＊水産物については、国内外の高級飲食店の料理人やバイヤーを招聘するなど、販促活動を実施。特に、「唐泊恵比須かき」については、R6.10に国際認証「MEL」を取得後、R7.12に香港への出荷において、月間最高個数を記録。 ・花きについては、高付加価値化に向け、農業者と花関連事業者との交流会や消費拡大及び認知度向上のためのPRイベント等を実施。				
【課題】 ・農産物については、市内で生産されていることの認知度が依然として低く、また、スーパーなどの小売店で市内産表示を見かけることが少ない。 ・水産物については、シンガポールにおける販売店舗数とシェフ招聘の取組みが、香港と同等まで展開できていない。 ・花きについては、高付加価値化、消費拡大及び認知度向上の推進には一定の期間を要し、継続的な取組みが必要である。				
【今後の方向性】 ・農産物については、様々なメディアを通じた情報発信を継続するとともに、スーパーなどの小売店での市内産表示を促進する。 ・水産物については、香港だけでなく、複数の地域での販売先の展開を調査・検討する。また、海外PRにおいて、販促活動や海外シェフ・バイヤーの招聘を推進する。 ・花きについては、引き続き交流会等の開催を通じて、農業者が高付加価値化につながる気づきを得る機会を提供するとともに、消費拡大及び認知度向上のためPRを実施する。				

●戦略的なプロモーションの推進

高付加価値な観光誘客				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
高付加価値旅行者の誘客に係る協力事業者数 (累計)	22 事業者 (2023 年)	72 事業者	62 事業者	A
【進捗状況】 ・地域の観光関連事業者による特別な体験型商品の開発支援や海外旅行博出展によるプロモーション等に取り組んだ。 ＊体験型商品開発 (のべ) R6n: 12 コンテンツ→R7n: 15 コンテンツ				
【課題】 ・地域の観光関連事業者による特別な体験型商品の開発や高付加価値旅行者の受入環境整備に取り組む必要がある。 ・福岡市の認知度拡大に向けた高付加価値旅行を取り扱う海外の旅行会社等に向けたプロモーションに取り組む必要がある。				
【今後の方向性】 ・付加価値の高い観光を推進し、量から質へのさらなる転換を図るため、地域の観光関連事業者による特別な体験型商品の開発支援や、コンシェルジュを養成するセミナーの実施、海外旅行博への出展によるプロモーション等に取り組む。				

広域周遊観光の推進				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
連携団体数 (累計)	223 団体	334 団体	323 団体	A
【進捗状況】 ・西のゴールデンルートの連携自治体と、大阪・関西万博への出展をはじめとする共同プロモーションや、パートナー事業者向けのメンバーズセミナーを企画実施した。 ＊大阪・関西万博への出展 R7n: R7.8.27～31 (5日間) EXPOメッセ会場「WASSE」にて開催、来場者 77,868 人 ＊メンバーズセミナー R7n: R8.1.22 姫路市にて開催、参加者 176 人 (現地 82 人、オンライン 94 人) ・福岡空港に直行便がある海外の有力な市場に対し、Web等を活用した魅力の発信と誘客の促進に取り組んだ。 ＊情報発信・招請事業回数 R6n: 24 回→R7n: 25 回				
【課題】 ・カントリーリスクを考慮し、幅広い国・地域からの誘客を推進する必要がある。 ・西のゴールデンルートの自治体やパートナー事業者との連携による商品造成を誘発する必要がある。 ・魅力ある観光コンテンツを有する自治体等と連携し、戦略的に情報発信やプロモーションを行っていく必要がある。				
【今後の方向性】 ・欧米豪を始め、幅広い国・地域からの誘客を図るため、西のゴールデンルートの取組み等により、海外の現地旅行会社・メディアへのプロモーションや広域周遊ルートの磨き上げ、旅行商品の開発促進等を行う。				

福岡型ワーケーションの推進				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
海外デジタルノマドの受入に係る協力事業者数（累計）	6 事業者	48 事業者	100 事業者	A
【進捗状況】 ・海外デジタルノマドの受入に係る協力事業者からなるコミュニティを立ち上げ、多様な業種から 44 事業者が参画し、デジタルノマドの受け入れに向けた体制の拡充が進んだ。 ＊コミュニティの交流会開催件数 R7n：3 回				
【課題】 ・デジタルノマドを交えた交流会の開催によりつながりは形成されたものの、その後の情報共有やフォローアップ体制を充実させるなど、コミュニティとしての活性化が課題である。				
【今後の方向性】 ・協力事業者の着実な拡充を図るとともに、コミュニティの活動支援や情報発信を強化し、デジタルノマドの受入体制の充実を図る。				

クルーズ客船誘致・受入体制の充実				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
博多港発着クルーズ船寄港回数	26 回	38 回	40 回	A
【進捗状況】 ・国内外のコンベンション参加や船社訪問等を通して、多様なクルーズを誘致するとともに、クルーズセミナー開催や福岡市民クルーズの募集を通して、博多港発着クルーズ誘致に繋がるクルーズ人口の拡大に取り組んだ。 ＊クルーズセミナー、出航見送り等市民向けイベント実施 R6n：8 回 → R7n：16 回 ・受入体制の充実のため、クルーズ船社やC I Q各機関と連携して動線等を工夫するなど、円滑な受入れに向けて取り組んだ。 ・クルーズN A V Iシステムの活用によって、クルーズ船観光バスの訪問地の分散化に取り組んだ。 ・一部観光地においては交通指導員を配置することで、適切なクルーズの受入に取り組んだ。				
【課題】 ・安定的にクルーズの寄港を確保するため、特定地域に偏らないよう、多様なクルーズの誘致活動に取り組む必要がある。 ・発着クルーズにおいては、乗船受付の待合スペースや荷物の預入れ・受渡しを伴うため、現在のクルーズセンターでは、スペースが不足することがある。 ・クルーズ客が一部の商業施設や観光地に集中し、交通混雑発生の懸念がある。				
【今後の方向性】 ・博多港発着クルーズの更なる振興を図るとともに、特定地域に偏らないよう、多様なクルーズを誘致するべく船社に働きかけていく。 ・発着クルーズ受入にあたっては、人員配置や動線の工夫等により当面のスペース不足を補う。 ・クルーズ船観光バスによる交通混雑については、博多港クルーズ船受入関係者協議会や県警などとも連携し、対策に取り組む。				

市民生活と調和した観光振興				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
外国人観光客のマナーに課題を感じない市民の割合	42.3%	39.3%	60%	C
【進捗状況】 ・まちなかや公共交通機関等における混雑防止のため、手荷物配送サービスや交通機関のクレカタッチサービスの利用促進に向けた情報発信を行った。 ・交通結節点等でのマナー啓発動画放映、大型ポスター・ステッカー掲示やSNS、パンフレット等での情報発信を行った。 ・天神地下街及び天神・大名地区エリアにおいて、外国人観光客マナー向上のための声かけ実証事業を行った。				
【課題】 ・まちなかや公共交通機関等における、観光客の大型手荷物等による混雑。 ・文化や習慣の違いによるマナー問題として、ごみのポイ捨て、トイレの使用方法等が見受けられる。				
【今後の方向性】 ・まちなかや公共交通機関等における混雑防止に向けた手ぶら観光の推進に加え、外国人観光客へのマナー啓発等の実施など、持続可能な観光振興に向けた取り組みを強化する。				

サステナブルツーリズムの推進
【進捗状況】 ・宿泊事業者等を対象に、CO2排出量の可視化や削減に向けたアドバイスをを行うとともに、サステナブルに資するコンテンツ事業者とのマッチングや認証ラベル取得を推進するためのセミナー等を実施した。 ・訪日外国人向けサイトなどで、取組み施設や取組み内容などを発信した。
【課題】 ・旅行者のサステナブルツーリズムに対するニーズは高まっている一方で、地域の観光関連事業者におけるサステナブルに取り組む際の知識・情報・ノウハウが不足している。
【今後の方向性】 ・宿泊事業者におけるCO2排出量の削減や持続可能な観光にかかる認証ラベルの取得を支援し、その取組み内容を効果的に発信することで、持続可能な観光の推進を図る。

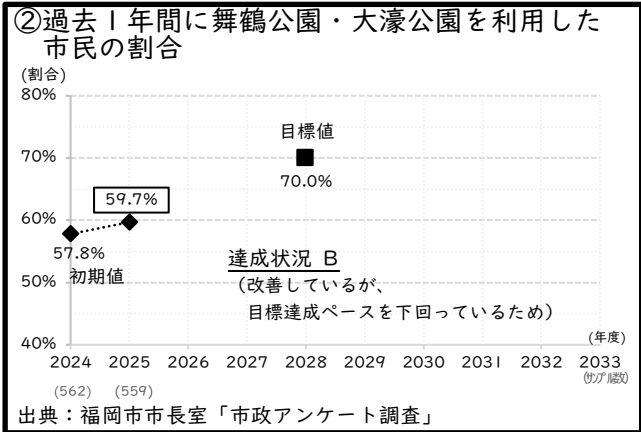
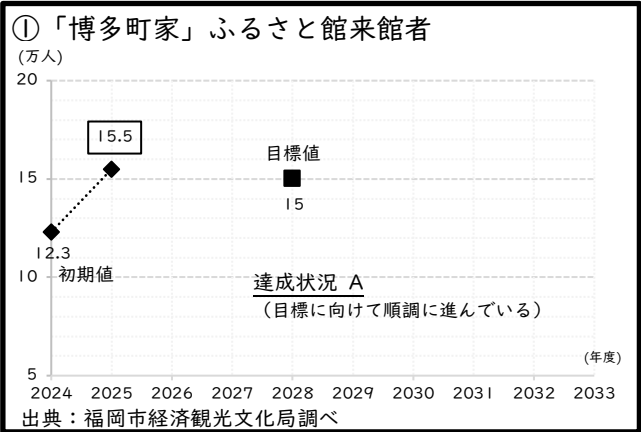
デジタルマーケティング情報発信
【進捗状況】 ・国内向けには、市の推進するコンテンツについて、オウンドメディアやWeb広告、SNSなどを活用したデジタルプロモーションを行った。 ・国外向けには、欧米豪向けWebメディアを招請し、ファムトリップなどを通じて市の魅力を伝える記事の発信などを行った。 ・欧米豪旅行者や富裕層をターゲットに、市の魅力を伝える観光プロモーション動画を制作し、デジタルサイネージWebメディア、SNSなどを活用して発信した。
【課題】 ・観光情報サイト「よかなび」やグローバルサイトの閲覧数が横ばいとなっている。
【今後の方向性】 ・今後も、引き続き市の魅力や様々なコンテンツをオウンドメディアやSNSなどを活用して発信することで、本市観光の認知度及び来訪意欲の向上を図る。

施策5-2 博多・福岡の歴史・文化を生かした観光振興

＜取組みの方向性＞

商人の街「博多」と城下町「福岡」の歴史や文化を生かし、「博多」においては、神社仏閣等を生かした歴史的な街並みの形成に加え、趣のある道づくりや新たな観光拠点づくりなどに取り組むとともに、「福岡」において、都心に近い貴重な緑地空間である舞鶴公園・大濠公園の一体的な活用を進め、福岡城や鴻臚館のさらなる整備・活用により、市民の憩いと集客交流の拠点づくりに取り組みます。

Ⅰ 施策の指標



＜指標の分析＞

- ①については、入館者数が右肩上がりで推移し、コロナ禍以前の水準に戻ってきている。
- ②については、これまでの自然、歴史資源、芸術文化を活かした取組みや、指定管理者の自主事業の充実、多様な民間イベント受入れなどによる取組みの推進により公園の魅力向上が図られ、来園者の増加に寄与していると考えられる。

2 事業の進捗状況、指標等を踏まえた「施策の評価」

○：概ね順調	(参考) 前年度の評価 —
--------	------------------

3 事業の指標・進捗状況・課題・今後の方向性

●商都「博多」の魅力を生かした集客促進

歴史資源を活用した博多部の魅力向上				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
博多旧市街セレクション登録商品数	76 商品	79 商品	100 商品	B
【進捗状況】 ・歴史・伝統・文化などの魅力を観光資源として磨きあげるなど、観光地としての価値や認知を高める取組みを地域・民間事業者と連携しながら、博多旧市街の観光推進に取り組んだ。 <観光地として価値を高める取組み> ・例年秋に実施している博多旧市街ライトアップウォークを中心に、寺社の特別拝観やエリア内の装飾など、博多旧市街の魅力を感じられる博多旧市街フェスティバルを開催。 ・博多旧市街の特有性を活かした観光商品の登録制度である博多旧市街セレクションについて、官民連携によるプロモーションを実施。 ・歴史資源や名所をつなぎ、趣のある道路として美装化を実施。 ・旧市街の雰囲気が感じられる灯籠をエリア内に設置することでまちなみの雰囲気を醸成。 ・音声ARを活用したまち歩きガイドコンテンツの作成。 ・歴史・伝統文化の体験や観光情報発信機能等を備えた観光拠点（伝統継承施設）の整備を検討。 ・出来町公園における休養施設等設置・管理運営に係る事業者公募を開始し、優先交渉権者を決定。 ・多言語対応、統一デザインにて観光案内板を整備。 ＊福岡アジア美術館の入館者数 R6n：380,306 人→ R7n：253,024 人 ＊外国人来館者数（「博多町家」ふるさと館、福岡アジア美術館） R6n：30,731 人→ R7n：24,837 人				
【課題】 ・博多旧市街の認知度向上のため、引き続き観光資源としての魅力を高めるとともに、市民や観光客への情報発信を行う必要がある。				
【今後の方向性】 ・博多旧市街フェスティバルの開催や、歴史的景観と調和した装飾、寺社等と連携した体験型コンテンツの造成・販売、SNS等を活用したプロモーション、主要駅での映像掲出に取り組む。 ・また博多旧市街エリアの歴史・伝統文化を体験できる機能や、観光情報の発信機能等を備えた伝統継承施設の基本計画策定に取り組む。				

冷泉小学校跡地活用の検討
【進捗状況】 ・地域や議会等の意見を踏まえ、跡地活用の方向性を示す「冷泉小学校跡地活用方針」をR8.1に策定した。
【課題】 ・跡地活用の検討に関しては、公共利用を考慮しつつ、地域の特性やニーズ、財源確保やまちづくりの観点などを踏まえ、総合的に検討する必要がある。 ・地域や福岡市にとって魅力ある跡地活用となるよう、「冷泉小学校跡地活用方針」で定めた内容の実現に向け、地域等との協議・調整を行う必要がある。
【今後の方向性】 ・「冷泉小学校跡地活用方針」に基づき、関係局と連携し、地域と協議しながら、事業化に向けた検討を進めていく。

●城下町「福岡」エリアの集客交流の推進

福岡城・鴻臚館エリアの魅力向上				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
福岡城むかし探訪館入館者数	46,879 人	41,196 人	60,000 人	D
鴻臚館跡展示館入館者数	42,328 人	34,411 人	60,000 人	D
三の丸スクエアの入館者数	104,167 人	50,830 人	133,500 人	D
【進捗状況】 ・南丸多聞櫓を含む櫓の特別公開を実施。 *来場者数 R6n：4,108 人 → R7n：4,902 人 ・福岡城むかし探訪館、三の丸スクエア、鴻臚館跡展示館などのガイドンス施設運営や、園路照明・イベント電源の整備による観光客の受入環境を充実させるとともに、着付や乗馬、ドローンによる記念撮影、復元された福岡城を楽しめる AR などの体験コンテンツの誘致や整備、古地図や御城印等の記念品販売を実施した。 ・復元整備に合わせた鴻臚館周辺の装飾や城郭らしさを創出する福岡城の装飾について検討を行い、計画を策定するとともに、エリアのロゴを制作した。 ・福岡城において、R7.3 に復元した潮見櫓をはじめとする歴史的建造物の特別公開や、石垣等のボランティア清掃活動を通じて史跡に親しむ取組みを進めた。 ・福岡城整備基金寄附 *積立総額：156,043,104 円、取崩額：0 円 ・鴻臚館北館東門の復元整備に着手するとともに、鴻臚館跡展示館のリニューアルの検討を実施した。				
【課題】 ・エリア全体の城郭らしさの醸成によるエリアの魅力向上と統一的なブランディングによる一体的な魅力発信が必要である。				
【今後の方向性】 ・R7n に策定した装飾計画に基づく装飾や照明演出の設置を進め、昼夜を問わず散策を楽しめる景観づくりや案内機能の充実に取り組む。 ・鴻臚館の復元整備に合わせた福岡城・鴻臚館エリアのブランディングや情報発信強化に取り組む。 ・福岡城整備基金の PR を強化していく（城内イベント連携、歴史系専門誌への広告掲載、SNS 発信等）。 ・R8n より、舞鶴公園エリアにおいて、国史跡福岡城跡・鴻臚館跡などの歴史資源を活かした魅力向上を図るため、明治通りについて、公園内の景観と調和した歴史を感じる歩道の再整備に取り組む。				

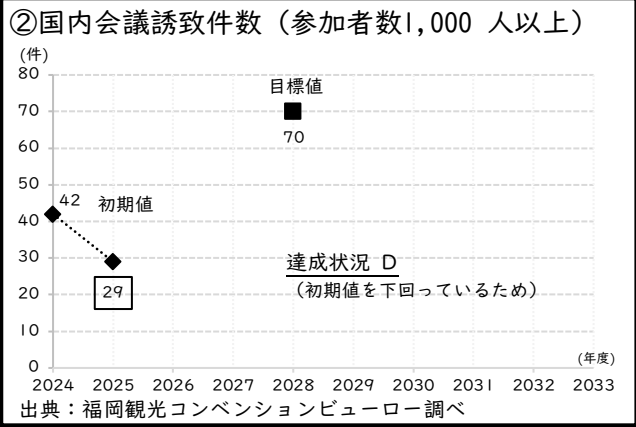
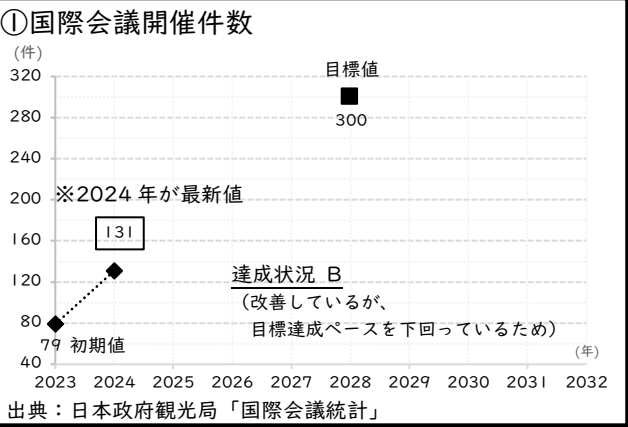
セントラルパーク構想推進				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
舞鶴公園でのイベント開催日数	188 日	231 日	280 日	A
舞鶴公園での花壇の手入れや清掃活動等のボランティア活動に参加した人数	732 人	1,020 人	1,200 人	A
【進捗状況】 ・大濠公園と舞鶴公園の一体的な活用の推進に向け、セントラルパーク基本計画（R1.6 策定）に基づき、ソフト施策の充実とそれを支えるハード整備の推進による両公園の魅力の向上に取り組んでいる。 （1）空間をつなぐ ・両公園の一体的な回遊性向上を図るため、透水性舗装による園路改修を行った。 （2）時をたどる ・鴻臚館の復元整備や福岡城鉄物櫓石垣の解体・修理、福岡城天守の発掘調査等に着手した。 ・歴史的建造物の公開や「ふくおか歴史文化遺産ウィーク」など歴史文化の魅力発信イベントを実施した。 （3）にぎわいをつくる ・「福岡城さくらまつり」や「光の城郭まつり」のほか、指定管理者による四季折々のイベントを開催するとともに、多様な民間イベントを受け入れ、利活用の推進を行った。 ・インバウンドの増加に対応し、トイレの清掃回数の増加やマナー啓発を行った。 （4）みんなで育てる ・多くの市民に親しまれる舞鶴公園の桜を将来に遺していくため、クラウドファンディングを開始し、取組みに共感いただいた市民等からの寄付により桜の新植、保護育成を実施した。 ・花壇づくりや園内の清掃、石垣の除草といった市民や企業のボランティア活動について、指定管理者の登録支援制度により、保険の加入や道具貸出しを行った。 ・両公園の関係事業者が参加する連絡会議を定期的に行い、一体的な運営に向けた協議や情報共有、連携したイベントガイドを発行した。				
【課題】 ・公園が歴史や芸術文化、観光の発信拠点となるようなより一層の利活用・整備の実施。 ・史跡としての位置付けがない施設の公園外移転、城内住宅の用地取得。 ・桜や梅、藤など四季を感じられる花々の保全。				
【今後の方向性】 ・福岡県や関係局と連携し、市民の憩いの場として、また、歴史、芸術文化、観光の発信拠点となる公園づくりに引き続き取り組む。				

施策5-3 交流がビジネスを生むMICEの受入環境の形成

<取組みの方向性>

都市のプレゼンス向上につながる国際会議やビジネス機会の創出につながる展示会など質の高いMICEのさらなる誘致強化を図るとともに、ウォーターフロント地区において、MICE施設とホテル・利便施設が機能的・一体的に配置されるMICE拠点の形成を進めます。

1 施策の指標



<指標の分析>

①については、国際会議の開催件数は順調に増加しており、特に、大規模国際会議（1,000人以上）については、コロナ前（2019年）比の9割を超える回復、外国人参加者数については約8割回復するなど、外国人参加者の多い大型会議は順調に開催されている。また、2025年度は、日本初開催となる世界観光ガイド連盟（WFTGA）総会など、質の高い国際会議が開催された。

②については、国内会議の誘致件数は各年度に開催が決定した件数であり、数年後の開催分も含まれるため年度ごとに増減が生じるものであるが、2025年度の実績については減少している。なお、コンベンションゾーンで開催される医学系等の大規模国内会議については順調に開催されている。

2 事業の進捗状況、指標等を踏まえた「施策の評価」

△：やや遅れている	(参考) 前年度の評価 —
-----------	------------------

3 事業の指標・進捗状況・課題・今後の方向性

●MICE機能の強化と誘致の推進

MICE拠点の形成				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
継続実施	—	—	—	—
【進捗状況】 ・MICEの需要動向や施設の現況調査を実施するとともに、展示場や会議場、宿泊施設などの関連施設が一体的・機能的に配置された拠点の形成に向け、MICE機能強化について検討を進めている。				
【課題】 ・福岡サンパレスや福岡国際センターについては、供用後44年が経過し、老朽化等が見受けられるため、これらの状況を踏まえたMICE機能強化に係る検討を進めていく必要がある。				
【今後の方向性】 ・施設の老朽化状況や時代の変化に対応できていない部分、MICE需要の動向などを整理したうえで、関連施設が一体的・機能的に配置された拠点の形成に向けて、更なるMICE機能強化に係る検討を進めていく。				

MICE誘致の推進				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
新たに誘致活動を行った国際・国内会議の件数	254件	264件	300件	B
【進捗状況】 ・Meeting Place Fukuokaを中心に、海外の商談会への出展による誘致活動を行った。また、経済波及効果の高い大型コンベンションやビジネス機会の創出につながる展示会に対する開催経費の助成等のMICE開催支援、ユニークベニューを活用する国際会議への支援を行った。 ＊海外見本市等商談件数 R6n:172件 → R7n:149件 ＊国際会議（JNTO基準）への外国人参加者数 R5:6,114人 → R6:9,161人				
【課題】 ・都市のプレゼンス向上につながる国際会議や経済波及効果の高い大型コンベンション、ビジネス機会の創出につながる展示会など、質の高いMICEの更なる誘致強化に取り組む必要がある。				
【今後の方向性】 ・今後も戦略的な誘致活動とともに、Meeting Place Fukuokaの体制強化や開催支援施策の充実などに取り組む。 ・ユニークベニューの活用を進め、MICE開催地としての魅力向上を図り、誘致競争力強化に取り組む。				

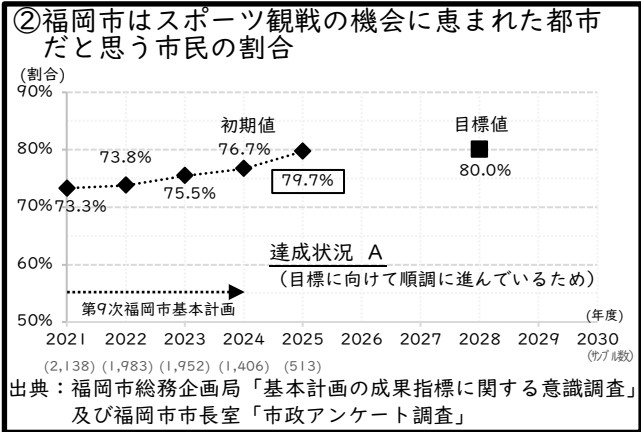
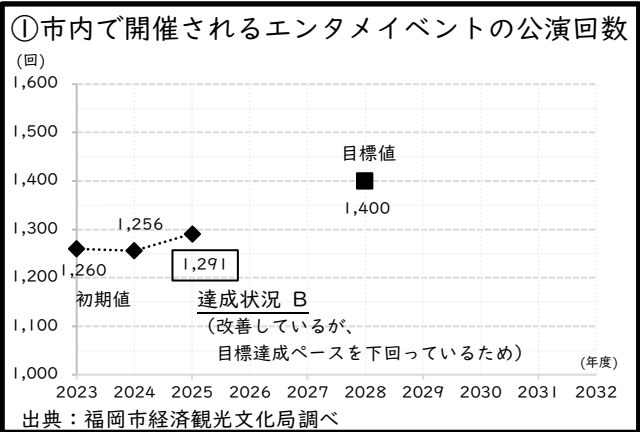
Fukuoka Flower Show の開催〈再掲4-2〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
企業・団体と共創する枠組み 「FFSメンバーシップ」への登録数	96 件	154 件	200 件	A
【進捗状況】 ・花をテーマとした MICE として「Fukuoka Flower Show 2026」を開催した。(R8.3.22～3.26) ・上記にあたっては、FFS メンバーシップ制度に基づき企業・団体が一体となり、広報やまちなか花装飾などを実施した。				
【課題】 ・まち全体での取組みに広げていくため、生産者や園芸店など花を供給する側と、ガーデナーや活動団体などのプレイヤー側の双方の関係者を増やすとともに、持続可能な仕組みの構築が必要である。				
【今後の方向性】 ・令和9年春開催予定の「Fukuoka Flower Show 2027」に向けて、より多くの関係者を巻き込めるよう効果的な情報発信を行うとともに、まちの魅力・価値を高められるように取り組む。				

施策5-4 人々を魅了するエンターテインメント都市づくり

＜取組みの方向性＞

ゲームや音楽、映像、アートなどのクリエイティブ関連産業と連携し、市民や来訪者が楽しむことのできる体験型イベントを開催するとともに、国際スポーツ大会等の誘致や、地元プロスポーツの振興などを図ることで、人々を惹きつけるエンターテインメント都市づくりを進めます。

1 施策の指標



＜指標の分析＞

①については増加傾向であり、引き続きクリエイティブ関連産業の振興及びエンターテインメント都市づくりの取組みを進める。

②については、地元プロスポーツチームと連携しながら広報活動等に取り組む中、増加傾向にあり、2021 年度以降最高値となっている。

2 事業の進捗状況、指標等を踏まえた「施策の評価」

◎：順調	(参考) 前年度の評価 —
------	------------------

3 事業の指標・進捗状況・課題・今後の方向性

●エンタメコンテンツの充実

クリエイティブ体験イベントの開催				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
市民や来訪者、クリエイティブ事業者が参加できるイベントの開催件数	18 件	20 件	25 件	A
【進捗状況】 ・産学官で構成するクリエイティブ福岡推進協議会（クリエイティブ・ラボ・フクオカ）を推進母体とし、異業種間の交流・連携を促進。 ・クリエイティブ関連イベントでは、アワードを中心としたクリエイティブ人材の創出に加え、エンタメコンテンツの展開により「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」を広く発信。 *R7n 来場者数：12,000 人 ・ゲームやアニメ、音楽分野においても、交流会やイベント等を実施し、指標の開催件数は初期値より増加している。				
【課題】 ・効果的に事業を行うため、事業者ニーズを把握しながら、クリエイティブ関連事業者の参加機会拡大に取り組む必要がある。				
【今後の方向性】 ・今後もクリエイティブ関連産業のさらなる成長・ビジネス拡大を図るとともに、「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」の実現に向け、クリエイティブ関連イベントなどの事業を実施する。				

映像作品を通じた誘客促進				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
観光誘客に資する作品誘致	—	2 件	4 件	A
【進捗状況】 ・R7n に映画やドラマ撮影に係る制作費の一部を支援する「映像を通じた誘客促進事業補助金」を新設し、国内外の大型作品誘致を強化することで本市の魅力を広く発信し観光誘客促進を図る。 *R7n 実績：応募 4 件、補助対象 2 作品。				
【課題】 ・国内外問わず、映像を通して福岡の魅力を発信し誘客促進に繋がる作品を、継続的に誘致することが必要である。				
【今後の方向性】 ・国内外の見本市やイベントへの参加を通じて、国内外のプロデューサーへのプロモーションを行う等、誘客促進に繋がる作品誘致に努める。				

音楽・e スポーツ等のイベント開催支援				
【進捗状況】 ・福岡ミュージックマンスを通じて、音楽都市としてブランディングを図るための共同プロモーションを実施。 *R7n 来場者数：約 183,000 人 ・福岡 e スポーツ協会を通じて、裾野を拡大するため e スポーツイベントの運営協力を実施。				
【課題】 ・「クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか」の実現に向け、民間主催のイベントについて、市民及び市外在住者の認知度をより向上させ、来場者数を増加させていくことが必要である。				
【今後の方向性】 ・民間主催のイベントに関して広報及び調整、助言等の開催支援を行い、来場者をより増加させていく。				

アートイベントの開催〈再掲1-2〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
「FaN Week」の来場者数	約30,000人	41,516人	36,000人	A
【進捗状況】 ・市美術館やアジア美術館との連携イベント「FaN Week」は、幅広いアートに触れる機会を創出し、新たなファン層を取り込むことを目的として実施。 2025年9月13日（土）～9月28日（日）16日間 （場所/展示等） 市美術館：コレクターズ展、Fukuoka Wall Art Project アジア美術館：ベストコレクションⅢ、ベトナム、記憶の風景展 アーティストカフェフクオカ：アジア美術館レジデンス成果展、グランドスタジオ特別展示 ワンビル：福岡現代作家ファイル マリンメッセ福岡B館：アートフェアアジアフクオカ2025				
【課題】 ・「魅力的で特別感がある展示を行っているが、展示期間が短く、もったいない」との意見あり。 ・子ども、障がいのある方が楽しめるイベントやワークショップが少ない。				
【今後の方向性】 ・県内外からより多くの来訪者を創出するため、開催期間を延長するとともに、美術館等と連携しながら広報を強化。 ・既存のパブリックアートを活用した市内周遊施策を検討。 ・子どもや障がい者が一緒にアートを楽しめるイベント等の開催。				

誰もが身近に文化芸術を楽しめるまちづくり〈再掲1-2〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
文化芸術を鑑賞する市民の割合	61.2%	68.9%	75%	A
【進捗状況】				
・美術館・アジア美術館・博物館において、様々なテーマの展覧会などを実施するほか、博多座や市民ホールにおいて、演劇・音楽等の多彩な公演が開催され、多数の市民の来場があった。 *美術館 コレクション展観覧者数 R6n：241,415人 → R7n：265,067人 *アジア美術館 コレクション展観覧者数 R6n：80,706人 → R7n：45,455人 (R7.12.1からR8.3.31まで休館) *博物館 常設展・企画展観覧者数 R6n：121,412人 → R7n：122,924人 *博多座 入場者数（市民檜舞台の月を除く） R6n：392,198人 → R7n：389,462人 *市民ホール 利用者数 R7n：416,024人 ・また、市民が気軽に文化芸術に触れられる機会として、民間の博物館等と連携した。福岡ミュージアムウィークなどの無料や安価で楽しめる各種文化芸術イベントを実施した。 *福岡ミュージアムウィーク スタンプラリー参加人数 R6n：1,288人 → R7n：1,250人 *Live@ミュージアム等 ステージイベント来場者数 R6n：3,280人 → R7n：3,486人 ・子どもについては、小学校へのアーティスト派遣や、貸切バス代等を助成して美術館・アジア美術館・博物館における対話型アート鑑賞などを実施した。 *対話型アート鑑賞の推進 R6n：受入校数 延べ87校 → R7n：受入校数 延べ87校 *小学校へのアーティスト派遣 R6n：84校7,234名 → R7n：82校7,687名 *小学校演劇鑑賞プログラム R7n：19校1,694名 ・障がい者等については、特別支援学校へのアーティスト派遣や、障がいの有無等に関わらず誰もが参加できる音楽会を実施した。 *特別支援学校へのアーティスト派遣 R6n：3校350名→R7n：2校277名 *音楽会「みえる かんじる 新しい第九」 鑑賞者数 R7n：785名 ・また、博多座や市民ホールにおいても、子どもや障がい者を対象とした鑑賞事業を実施した。 *博多座、市民ホール 鑑賞事業（件数・鑑賞者数） R6n：2件793人→R7n：8件1,377人				
【課題】				
・市主催の文化芸術イベントについては、市民等の認知度が高くなく、来場者の広がりが求められている。 ・市民の文化芸術鑑賞の場である、博多座などの文化施設においては、今後、適切に修繕を実施していく必要がある。 ・子どもについては、家庭の事情に左右されず文化芸術に触れることができる学校での取組みが重要であり、障がい者については、障害者差別解消法の改正によって、民間事業者にも合理的な配慮が義務付けられたため、市の取組みの充実だけでなく、民間事業者による取組みの支援が重要となっている。				
【今後の方向性】				
・市主催の文化芸術イベントについては、内容と広報の充実を図り、より多くの市民の来場を促進する。 ・博多座については休館を伴う大規模修繕を計画しており、R8nは基本設計や工事部品等の発注を行う。 ・子どもについては各種取組みの対象校数等を拡大するとともに、障がい者については、美術館等において手話通訳付きの鑑賞ツアー等の充実を図るほか、R8n開始の「文化芸術鑑賞サポート推進事業」による民間団体への助成や研修により、インクルーシブな取組みの促進に努める。				

クリエイティブ関連産業の振興〈再掲7-4〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
人材育成関連事業の参加人数	870 人	1,489 人	1,800 人	A
【進捗状況】 ◆ゲーム分野 ・産学官（GFF＋九州大学＋福岡市）で組織する福岡ゲーム産業振興機構等により、ゲームインターンシップ、ゲームコンテストなどの人材育成事業や広報事業を実施。 ＊ゲーム関連産業事業所数 R6n：38 社（R7.1 現在）→ R7n：38 社（R8.1 現在） ＊ゲーム関連産業従業者数 R6n：2,642 人（R7.1 現在）→ R7n：2,693 人（R8.1 現在） ◆アニメ分野 ・アニメ関連企業の人材確保・育成や「アニメ都市」としての認知度向上を目的としたイベント等を開催。 ◆映画分野 ・フィルムコミッションを通じた撮影支援を行うとともに、地元映画監督の発掘・育成を実施。 ◆ファッション分野 ・地場ファッション産業の活性化に向け、関係団体等との連携を実施。 ◆音楽分野 ・「福岡ミュージックマンス」に参画し、音楽都市としてブランディングを図るための共同プロモーションを実施。また、音楽産業振興基金を運営した。 ・福岡音楽都市協議会と連携し、ビジネス活性化に向けた取組みや、音楽関連情報の情報発信、人材育成事業を実施。 ◆デザイン分野 ・デザイン関連団体などとの連携のほか、福岡県産業デザイン協議会事業へ参画し、ワークショップや販路拡大支援を実施。				
【課題】 ・クリエイティブ関連産業は、国のクールジャパン政策にも見られるように更なる成長が見込まれる中、福岡市内のクリエイティブ関連事業者からは人材不足の声が上がっている。市内クリエイティブ関連産業の更なる振興を進めていくためには、優秀な人材を福岡で育成することが重要。				
【今後の方向性】 ・クリエイティブ関連産業は更なる成長が見込まれ、本市の特性にもあった次代の成長エンジンとなりうる産業分野であり、産学官と連携しながら引き続き振興する。 ・ゲームをはじめ、アニメ、映画、ファッション、音楽、デザインなどクリエイティブ関連産業を包括的に捉え、さらなる振興を図るとともに、海外展開や集客等を促進する。 ・福岡ゲーム産業振興機構等の事業を通じ、企業が求める人材の育成に努める。 ・上記事業を通じて、市内のクリエイティブ関連産業のさらなる振興を図り、若くて優秀な人材の創出に努める。				

●国際スポーツ大会等の誘致及びプロスポーツの振興

スポーツコミッション事業
【進捗状況】 ・東京 2025 世界陸上の開催にあたって、3 か国（スウェーデン、ノルウェー、デンマーク）の事前合宿受入れを実施。 *R7 n：参加人数 104 人 ・上記の事前合宿にあわせて、公開練習や選手団コーチによるワークショップなどの市民交流事業を実施。 *R7 n：参加人数 約 550 人
【課題】 ・国際スポーツ大会に関する情報収集等を行っていく必要がある。 ・市民に夢や希望を与え、青少年の健全育成や市民スポーツの振興に寄与するため、トップレベルの競技を観る機会だけでなく、選手との交流イベント等、スポーツを体験する機会の提供も必要。
【今後の方向性】 ・各種競技団体等と連携し、国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会の誘致などにより、市民が一流のスポーツに触れ、楽しむことができる機会を創出する。 ・市民が高いレベルのスポーツに触れ、自らもスポーツを体験できる機会を創出するため、トップアスリートとの交流イベント等を実施していく。

プロスポーツチーム等との連携
【進捗状況】 ○プロスポーツチームとの連携 ・福岡市に拠点を置く、アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファークオカ等と連携して、市民や選手・監督・コーチが触れ合うスポーツイベント（スタージャンプ福岡）を実施。 ・アビスパ福岡等と連携し、子どもから高齢者までを対象としたサッカー教室等の実施や市民の観戦招待事業等を通じて、市民がスポーツに触れる機会を創出。 *サッカー教室の開催件数 R6n：141件 → R7n：128件 (内訳) ・親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） R6n：3件 → R7n：3件 ・子どもサッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） R6n：112件 → R7n：100件 ・アビスパ健康教室（およそ60歳以上を対象とした運動啓発教室） R6n：12件 → R7n：11件 ・ブラインドサッカー教室（小学生を対象としたコーチ及びブラインドサッカー選手による体験教室） R6n：14件 → R7n：14件 *観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） R6n：7件 → R7n：9件 ※区観戦招待を含む *心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） R6n：18件 → R7n：15件 ○大相撲九州場所 ・デジタルサイネージを活用した広報等を実施。 ・市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業及びこども観戦招待事業を実施した。 *市内小・中・特別支援学校の観戦招待事業 R6n：15校 → R7n：18校 *こども観戦招待事業 R6n：632人 → R7n：636人
【課題】 ○プロスポーツチームとの連携 ・アビスパ福岡、福岡ソフトバンクホークス、ライジングゼファークオカなど多彩なプロスポーツチーム等が活動しているが、各チームが取り組む地域に根差した取組みなどについては広く市民に認知されていないものもあり、その活動の周知を行っていく必要がある。 ○大相撲九州場所 ・市民のスポーツへの関心を高めるため、観戦機会などの充実を図っていく必要がある。
【今後の方向性】 ○プロスポーツチームとの連携 ・市民の認知度を高めるため、プロスポーツチームの試合情報や地域に根差す取組みについて、広報活動を実施する。 ・各スポーツチームと連携し、市民とのスポーツ交流活動を実施する。 ○大相撲九州場所 ・より多くの児童・生徒や市民が観戦機会を得られるよう、日本相撲協会等関係団体と連携して観戦招待事業の充実を図るなど、取組みを進める。

ボートレース福岡パーク化〈再掲1-2〉				
指標	初期値	最新値	目標値	達成状況
供用開始(2026年度)	—	—	—	—
【進捗状況】 ・R5n 基本計画、実施方針・要求水準書(案)を策定 ・R6n 公募を開始し、優先交渉権者を決定 基本契約を締結後、設計施工一括契約による設計に着手 ・R7n 設計施工一括契約による工事に着手				
【課題】 ・近隣施設と連携した天神北エリア一帯のにぎわい創出が求められる。				
【今後の方向性】 ・初心者から上級者まで誰もが楽しめる国内最大級の屋内型スケートボード場を令和8年10月開業に向けて整備する。				